

Interview / 下松市で新しい生活を始める

「もっと快適な場所で暮らしたい」
「新しい場所で挑戦したい」「自分の手で何かを作りたい」
そんな願いから、移住やUターンを検討した経験のある人は多いのではないのでしょうか。
ここでは、実際に下松市に移住・Uターンを決断し、新たな生活をスタートさせた人々へのインタビューを紹介します。それぞれの背景や移住の動機、そして現在の暮らしぶりを通して、移住を検討されている人だけでなく、新しいことに挑戦したいと考えている人にとっても、何かヒントが見つかるはずです。



Case 01 移住

いくや
【俳優】元木行哉さん

Profile

昭和44(1969)年生まれ、大阪府出身。19歳で俳優デビューし、TV、舞台、映画、CMなどで活躍。平成25(2013)年に映画の撮影で下松に初めて訪れ、平成31(2019)年に移住。はなぐり海水浴場と牛骨ラーメンをこよなく愛する。
<https://www.ikuya-motoki.com/>

人も自然も穏やかな、住み心地のよい環境

平成31(2019)年に東京から下松に移住し、山口県を拠点にドラマへの出演や番組のMCから映画・動画制作まで、多岐にわたって活躍する、俳優の元木行哉さん。下松との「縁」が生まれたのは平成25

(2013)年、映画「OYAKO」の撮影でした。「初めて笠戸島に訪れた時、なんてきれいな所なんだろうと感動しました。一発で好きになりましたね」と元木さん。映画の撮影終了後も、年に1回はイベントなどで下松へ定期的に訪れ、平成31(2019)年には親しいTVプロデューサーのオファーを受けて下松へ移住。「下松の魅力は、人も自然も穏やかな所です。東京から移住すると不便に感じないか、と聞かれることも多いですが、僕は一切不便だと思ったことはありません。生活していく上で必要なものがほどよくそろっており、山も海も近く、商業施設もある。コンパクト



Kビジョン製作ドラマ「たべものがたり 元木食堂」撮影風景

トなまちは住み心地も良いです」と話します。最近では、中学校の映画部のアドバイザーを務めるなど、若い世代へ映画作りの技術を伝える活動も行っている元木さん。映画制作を通じて下松の魅力を全国へ発信するため、心血を注いでいます。



ドラマ「たべものがたり 元木食堂」オールスタッフ

下松市民が語る
まちの推しポイント

下松は生活環境が整っていて、過ごしやすい。それでいて、自然が身近に感じられるのも魅力です!



きれいな海とたくさんの自然があり、外で遊ぶのにぴったりの場所です。新鮮でおいしい魚も食べられるので、みんなにお勧めです。



国民宿舎大城でお風呂から望む夕日のロケーションや、近所の川で飛び交うホテルなど、好きな場所や風景がたくさんあります。牛骨ラーメンがイチオシです。



コンパクトにいろんな施設が整っていて、地域の人も優しく居心地がとていい。だからずっとこのまちに住み続けています。今は学生ですが、将来も下松市で働きたいです。



「住みよさランキング」でもよく上位に選ばれていますが、自分としても断トツに住みやすい場所だと思います。笠戸島アイランドトレイルや土曜夜市などのイベントもお勧めです。



コンパクトに住みよいまちです。海も山も近くてどちらの自然も楽しめるし、日常生活での便利さもある。公園や自然道も多く、散歩するのにも最適! ペットと暮らすのにもいいですよ。



大地の恵みと人の温もり 下松で育む自分たちらしい農業

無農薬無肥料で多品目の野菜を育てている田中さん夫婦。友紀さんはオーストラリアのオーガニックファームでのアルバイトがきっかけで農業に興味を持ち、結婚を機に、二人が住んでいた東京から結さんの出身地である下松に移住しました。最初は土地もなく、道具もクワとレイキのみ。手付かずの山や砂利の駐車場を開墾するところからのスタートでした。市職員の温かいサポートをはじめ、近所の農家さんには畑作りから食べ方の知恵まで教えてもらい、助けてくれる人が沢山いたことが農業をする上で大きな支えになったそうです。「自宅から見える美しい眺めが何よりの癒し」と話す二人。日々癒しの風景に囲まれながら、思い描いた農業に取り組んでいます。



Case 02 就農

ゆうき ゆい
【農家】田中友紀さん(左)・結さん(右)

Profile

平成22(2010)年に東京から下松に移り住み、2人の子育て中。無農薬無肥料で多品目露地野菜を育て、「田中野菜」として野菜セットを販売中。
<https://tanakayasai.net>



野菜セット販売中

『地方と全国』どちらも選べる 地方暮らしの働き方

大学を卒業後、大阪の印刷会社に勤めていたセキさん。東日本大震災をきっかけに地元で過ごしたいという想いが膨らみ帰郷。新潟出身のご主人にとっては移住という形になりました。会社勤めから次第にフリーランスという働き方を見出し、今や大手出版社からの仕事も続々! 縁を生かした山口県の仕事と、ネット環境を生かした全国からの仕事の両方を良いバランスで手掛けています。「下松は海も山もきれいで暮らしやすく、子育てもしやすい環境。何より移住した夫がここでの生活を気に入っていることに、私も満足です」と話します。



自身の絵日記を1冊にまとめたZINE「週報のような手書きの記録」も発売。



セキさんがカバライラストを手掛けた書籍。



【イラストレーター】セキサトコさん

Profile

大阪と山口で計7年の印刷会社勤務を経て、平成29(2017)年からフリーに。にぎやかにまとめあげる楽しいビジュアル表現が得意。広告・雑誌・書籍などで幅広く活動中。
<https://www.satokom-gallery.com/>